立教大学 異文化コミュニケーション学部
学部案内 2019

SOLUTIONS IN DIVERSITY

RIKKYO UNIVERSITY
College of Intercultural Communication

「ちがい」から、つくる。

自分とは異なる文化や信条を持つ人と、まっすぐに向き合ってみる。
ひとりでは生みだせない発想が生まれ、ぶつかりあい、新しい価値が築かれる。
みんなと同じ学びに、貴重な4年間を費やす意味はない。
人とはちがう、世界でただひとりの存在へ。
多様な人々と世界的課題に向き合い、現場で実践的な答えをつくりだせる力を。
私たち、異文化コミュニケーション学部とともに。

ちがう未来へ動きだせ

［目指すべき未来］

複雑に関わりあう世界と地域の情勢を把握し、
つねに新しい価値を生みだせる人間であること。
時代の変化を見つめ、身につけた手法を絶えず更新し続けられる人間であること。
そんな未来像を想いながら、貴重な4年間をともにしましょう。

ちがう力を身につけろ

［与えられる提供価値］

同調の輪から一歩踏みだし、人よりも先に動ける人へ。
人々の行動や心情、文化的背景まで多面的にとらえ、本質を見極められる人へ。
そして、多様な人々とともに、具体的な解決策を生みだせる共創力を持つ人へ。
そのために必要な精神と視点を授けることを約束します。

ちがう意識を持て

［求められる人物像］

人とはちがう人間でありたいという潜在的欲求。
そして、日本や世界をどう変えたいのか、何ができるのかをつねに考え続ける意思。
その強い想いさえあれば、必要な知識や能力を身につける場がここにあります。

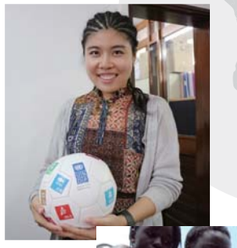
異文化に立ち向かう、本物の覚悟が試される。

TOPIC 1 国連ユースボランティア

国連との距離が縮まった。
同時に、将来の自分との距離も縮まった。

浜川 美希　異文化コミュニケーション学部4年
国際基督教大学高等学校出身

モザンビーク共和国にて国連ユースボランティアとして働いてみて、私が最も強く感じたことは「国連との距離感」です。国連は、私が想像していたよりも、遠い存在ではありませんでした。
私が派遣されたのはアフリカ南部のモザンビーク共和国にある、国連ボランティア計画のモザンビークオフィスです。発展途上国において国連機関がどのような活動をしているのかを確かめることができる貴重な機会でした。最も遠く感じていたアフリカ大陸での生活、そしてそこで5か月間広報官として働くことは、驚くほどの異文化体験の連続だったのは言うまでもありません。国連スタッフの一員として働くという「異文化」体験は、私を大きく成長させてくれました。
勤務内容は主に国連ボランティア計画（UNV）が掲げるボランティアリズムを、国際開発計画（UNDP）が主体となって進められている持続可能な開発目標（SDGs）を含めて推進することでした。具体的には、カレンダーやニュースレター等の発行物の製作、12月5日の国際ボランティアデーで行われるイベントの企画や実行、そして当時モザンビークで現役UNVとして働く人々にインタビューを行いました。
責任とプライドを持って仕事をしたこの5か月間は、同じオフィスにいた同僚たちのプロ意識に刺激され、常に彼らに追いつこうとしていた自分がいました。同時に、国連機関で働く人々が抱える熱意や葛藤を目の当たりにすることで、今まで手の届かないような遠い存在であった国連が、一気に人間味を増して身近に捉えることができました。私は彼らに比べると経験は浅いですが、仕事に対する熱い気持ちや苦悩する気持ちは同じであることを感じることができました。このプログラムに参加するまで自分が抱えていた「国連」への固定概念が、実際にその組織の一員になることによって壊されました。また、「国連職員」と「日本人大学生」という構図の異文化のぶつかり合いを経験できたように思います。
2年次の「海外留学研修」、そして3年次の国連ユースボランティアプログラムを通して、将来は国際開発における相互のコミュニケーションの担い手を志すようになりました。立教大学異文化コミュニケーション学部を卒業後も更なる勉学に励みたいと考えています。国連ユースボランティアの経験を通して、現時点の自分の位置と、目標である国際機関で働く自分との距離を明確に測ることができました。



国連ユースボランティア	国連機関である国連ボランティア計画（UNV）と大学が連携し、学生を開発途上国にある国連事務所や政府機関、NGO等にボランティアとして派遣するプログラム。

TOPIC 2 海外フィールドスタディ

現地に溶け込む。
体験こそが異文化理解への第一歩。

下嵜 哲也　異文化コミュニケーション学部4年
立正大学付属立正高等学校出身

私が海外フィールドスタディで訪れたのはタイの北部にあるインタノン山の標高1000メートルほどの所にあるホワイプリン村という小さな村でした。
この村では伝統的な暮らしと近代化した暮らしが共生しており、人々は自給自足の生活を行いながらも車やバイクといった近代化の恩恵も享受していました。一見器用に生活をしていると思いましたが、村の人々と話してみると近代化により生まれたプラスチック等の自然に還らないゴミ処理問題や、染物などの伝統文化が化学繊維の流入などにより若い世代に継承されず廃れ始めている問題など、一筋縄では解決できないような難しい課題があることがわかりました。
滞在中、実際にそこで暮らす人々や文化を肌で感じ、理解するため、できるだけ現地に溶け込むように生活をしていました。彼らの生活を観察しながら家事や農業などを自分から手伝うよう心がけました。また、タイ語と現地語を覚えて自分からコミュニケーションを取り、村の集会なども積極的に参加して交流を図りました。この姿勢を持っていたことが彼らの文化、村の現状や課題などに対する理解を深めることができた大きな要因であったと思います。
異なる文化や価値観を理解し受け入れることの大切さは、異文化コミュニケーション学部で学んできました。しかし、学んだことを実際に行動に移すことの難しさをこのプログラムで体感しました。今回の経験は、これから多角的かつ柔軟な視点で、様々な事象に対して目を向けていくための、大変貴重な第一歩になりました。

海外フィールドスタディ	2017年度より開講された新しいプログラム。約2週間、海外のフィールドにグループで滞在し、異なる生活や文化、その国が抱える社会問題などを、体験を通して学びます。その国の人々との交流、対話、協働を通して、異文化コミュニケーション学部が目指す異文化社会におけるコミュニケーション能力を養います。

TOPIC 3 サービスラーニング（中国語学習支援）

支えたいのは勉強だけでなく、
みんなといっしょに生きていく気持ち。

蕭 培恩　異文化コミュニケーション学部4年
留学生（香港出身）

私は、高校卒業後、「こんにちは」しかわからない状態で、香港から父が仕事をしている日本にやって来ました。2年間日本語の勉強をして、異文化コミュニケーション学部に留学生として入学しました。今は、学部の地域連携プログラムの一つとして、大学の近くの中学校で、中国から来た中学生の学習支援をしています。自分の意思ではなく日本に来た彼らが学校での生活を少しでもスムーズに送れるよう、授業で隣に座り先生の話すことを通訳しながら勉強をサポートしています。初めは、この活動は単なる通訳ボランティアだと考えていましたが、今は、私たちは仲間として、同じ外国人として、一緒に日本で頑張っていこうという気持ちでサポートしています。異文化コミュニケーション学部には、こうした活動に参加する機会もたくさんあります。私のように日本に留学している人も、日本人の皆さんが海外に行く時も、お客さんとして留学するのではなく、自分の力を活かしてその国の社会のために何をしたいか、何ができるかを考えてみてください。

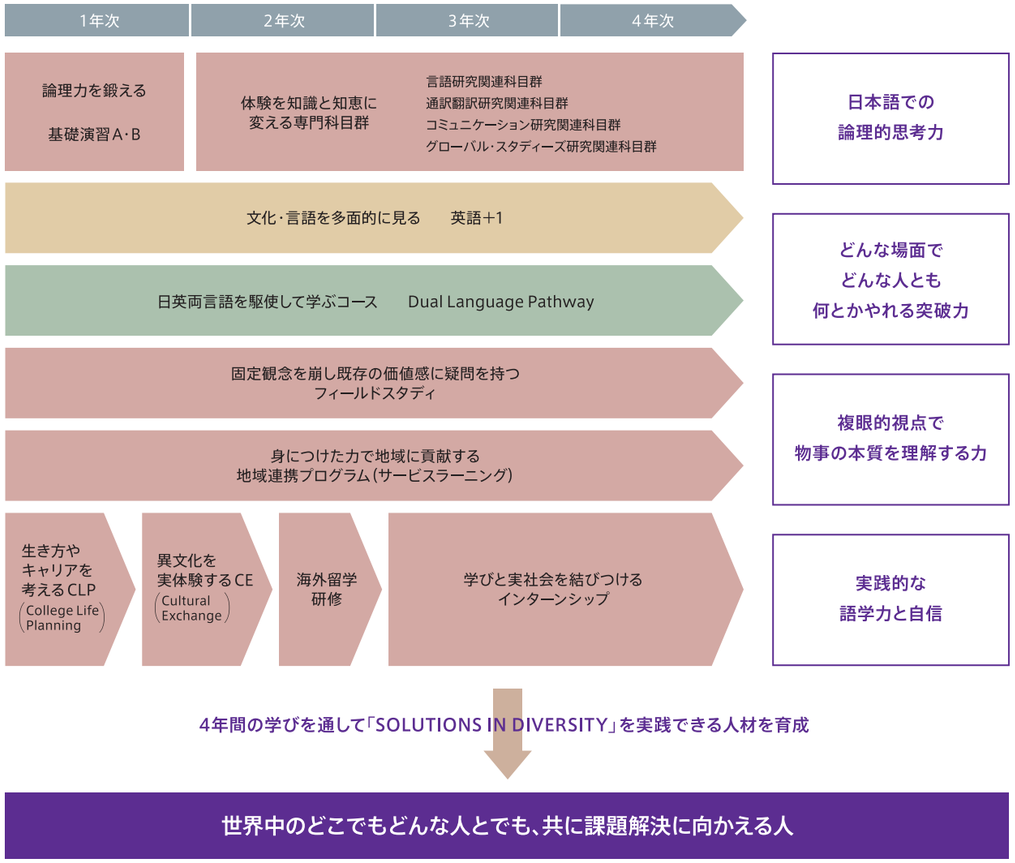
サービスラーニング	教室での学びを地域における社会貢献につなげる科目で、1年次生から履修できる科目があります。現在実施している中国語学習支援に加え、異文化コミュニケーション学部で展開する学び―日本語教育、通訳・翻訳などと地域社会を結ぶ多様な社会貢献を対象としていきます。

「これだけですべてがわかる」そんな学びは存在 しない。

学部教育の考え方

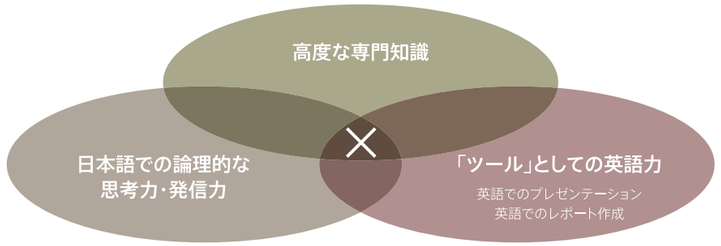
異文化コミュニケーション学部では、理論と経験の両軸から質の高い学びを構築。さらに４年間を通して準備された様々なプログラムを体験することで、実社会のあらゆる現場において、その時その状況に必要な実践力と対応力を、柔軟にひきだせる人材を育成します。

学びの流れ



英語だけでは通用しない時代へ。
真のグローバル人材を育てる“Dual Language Pathway”

英語と日本語、2つの言語と高度な専門知識を使って、柔軟に問題対応ができる人材を育成するDual Language Pathway（DLP）。日本語で考察、理解、発信する力に加え、国際語である英語で読み、書き、話し、聞く力を身につけ、現実に根ざした実践的スキルを駆使できるようになるための4年間のプログラムです。DLPは定員15名、入試も個別に行います。学部設置の英語で展開されている専門科目を中心に履修、同時に日本語で展開されている科目も学生の興味関心に応じて履修します。少人数制で切磋琢磨するプログラムで、これからの世界に求められる「本当のグローバル人材」へ。ここでしか得られない価値を身につけてください。



DLP 履修の特色

1. 卒業に必要な専門科目をすべて英語で学びます。
2. 日本語で展開する科目は、学生個々の興味関心ある科目より履修します。
3. 卒業研究（論文）は必修。英語で論文を完成させます。
4. ２年次秋学期には、学部間協定大学への1年間の留学など、長期留学を目指します。

DLP 科目例

Academic Skills A, B
Overview of Language and Communication Studies
Overview of Global Studies
Introduction to Communication
Introduction to Cultural Studies
Introduction to Intercultural Communication
Communication and Citizenship
Multiculturalism in Japan
Bilingualism
Religions in Japan
Media in Japan
Ethnicity and Globalization in Japan

DLP INTERVIEW

その15名は学部が責任をもって教育します。

異文化コミュニケーション学部長　浜崎 桂子

グローバル化の勢いが一向に衰えを見せない中、日本は今、少子高齢化の課題を抱えています。21世紀の日本を支え、さらに世界に貢献していくためには、もはや英語ができるだけでは通用しません。異文化コミュニケーション学部は、DLPの学生たちを、日本語と英語という２つの言語を駆使して、様々な課題を解決していくことのできる人材に育成していきます。15名という少数精鋭の学習環境で、あなたも自分の力を試してみませんか？一歩前へ踏み出す勇気。必要なのはそれだけです。あとは、私たちがあなたを、責任をもって導いていきます。

インフォメーション

DLPは定員15名、秋季入試（国際コース選抜入試）で選考します。

慣れあうより、ぶつかりあうのがコミュニケー ション。

SOLUTIONS IN DIVERSITY 「ちがい」から、つくる。

日本語を教えながら、異文化とのちがいを感じとる。“立教日本語教室”

豊島区と連携して、日本語を母語としない人々の日本語学習支援を行っています。学部・研究科で日本語教師になるための養成科目を履修している学生たちがボランティアとして参加し、週２回日本語教室を開講しています。学生が主体になって教室をつくり、学習者のニーズに合わせた学習支援を心がけています。

この立教日本語教室は2013年に始まり、現在に至るまで様々な国籍、年齢、職種の方に来ていただきました。「グローバル化」という言葉を耳にする機会が増え、多くの外国人が日本を訪れ、日本語のニーズも高まりも感じます。私はこの教室を通じて、「日本語」や「日本」を客観的に見ることができるようになり、「学習者の立場に立って日本語を捉える」ことを心がけて活動に取り組んでいます。この教室に通うことで学習者は多くのことを学び、学習者と共に学ぶことでボランティアも「日本語」や「日本語教育」に関心を持っていけるような日本語教室を作っていこうと思います。

益本 佳奈　異文化コミュニケーション研究科異文化コミュニケーション専攻1年　異文化コミュニケーション学部卒業　広島女学院高等学校出身

日本語教員養成プログラム

異文化コミュニケーション学部では、日本語を母語としない人々に日本語を教えるスキルを身につけることができるプログラムを置いています。所定の科目を修得し、卒業研究まで終えた学生には、修了証が授与されます。外国語として日本語を教えることは、単にことばとして日本語を理解する人々を増やすことにとどまらず、そこから日本や日本人を理解してくれる人々を世界に増やす役割を持っています。つまり、世界の中で日本のプレゼンスを高め、日本語を理解してもらうことに役立っているのです。これまで、多くの学生が修了証を受け取り、すでに日本語教師として働いている先輩も出ています。世界の人々に日本語を教える仕事は、まさに異文化コミュニケーションそのものを実践する仕事です。国内にとどまらず、海外でも仕事ができるチャンスが広がっています。

日本語教員養成プログラム必修科目

「日本語教育実習」は、立教大学に留学している留学生を学生として、実際に授業を行う科目です。教案の作成、教材作成から授業まで、週２回の授業でしっかりと学びます。

1年次	2年次	3年次	4年次
日本語学概論Ａ	日本語教授法Ａ	日本語教授法Ｂ	専門演習
日本語学概論Ｂ		日本語学特論	卒業研究
		日本語教育実習	
		専門演習	

実際の現場で通訳･翻訳を体験する。“RiCoLaS”（立教コミュニティー翻訳通訳サービス）

RiCoLaSは、異文化コミュニケーション学部の通訳・翻訳者養成プログラムで学ぶ学生が主に学内で発生する実際の通訳・翻訳プロジェクトに取り組むサービスラーニングのプログラムです。ガイドラインに沿って適切なプロジェクトを選択し、これまで、留学生向けのフィールドトリップやセミナーでの逐次通訳、国際シンポジウムでの同時通訳、立教学院展示館の解説の英訳、公開講演会の配布資料の和訳などを実施してきました。通訳者・翻訳者としての職務倫理を確認し、準備、トレーニング、実施、クライアントのフィードバックに基づく振り返りといったプロジェクト全体を管理するのも学生です。翻訳メモリなど、最新の翻訳ツールも駆使します。学生は、教室で習得したスキルや知識を実際のクライアントやユーザーのいるプロジェクトで活用し、コミュニケーションの仲介者としての喜びを実感できます。また、プロジェクトのワークフローを把握し、突発的な問題への対処能力や、クライアントとのコミュニケーション能力を養う貴重な機会を生み出しているのもRiCoLaSの特徴です。

通訳・翻訳者養成プログラム

異文化コミュニケーション学部では、学部から大学院まで一貫性のある通訳・翻訳者養成プログラムを設置しています。学部４年間を通して、このプログラムを修了した学生には、修了証が授与されます。通訳・翻訳者養成プログラムを修了するためには、母語と外国語の極めて高い運用能力が求められるため、修了までの道のりは険しいですが、チャレンジする価値のあるプログラムです。グローバル化に伴って、通訳・翻訳者のニーズはどんどん高まっています。通訳というと、国際会議での通訳を思い浮かべる人も多いと思いますが、それだけではありません。病院、警察署、裁判所など、日本語の力が十分でない人々が必要とする通訳の場面は、日常のいたるところに広がっています。日本が本当に世界に開かれた国となっていくためには、通訳や翻訳のスキルを身につけた人々が必要なのです。みなさんも、異文化コミュニケーション学部で、ぜひこのプログラムにチャレンジしてみてください。

通訳･翻訳者養成プログラム科目

ISOなど国際基準に則った、他学に類のないカリキュラム構成。体系的な学びを通じ、世界でもプロとして認められる通訳・翻訳者を養成します。

1年次	2年次		3／4年次	
通訳翻訳学概論	通訳入門	通訳翻訳と多文化社会	逐次通訳	通訳翻訳実習
	翻訳入門	通訳翻訳の歴史	同時通訳入門	通訳翻訳の理論と研究
			翻訳応用実践１	専門演習
			翻訳応用実践２	卒業研究

サービスラーニング

教室での学びを地域における社会貢献につなげる科目で、1年次生から履修できる科目もあります。現在は、豊島区の中学校で学ぶ外国人生徒の学習支援を対象とした科目で、実際に中学校の教室に入って行う言語サポートや本学で実施する学習支援を行っていますが、今後は異文化コミュニケーション学部で展開する学び―日本語教育、通訳・翻訳などと地域社会を結ぶ多様な社会貢献を対象としていきます。

海外フィールドスタディ

海外の様々な現場で、異なる生活や文化、その国が抱える社会問題などを体験し、自分自身が持つ常識や価値観と正面から向き合うことを通して成長することを目指すプログラムです。その国の人々との交流、対話、協働を通し、異文化コミュニケーション能力、たくましく生きていく力を身につけることができます。2018年度はスリランカとタイでの実習を予定しており、1年次生から履修可能なプログラムもあります。

English Camp

豊島区の小･中学生をキャンパスに招き、英語だけで過ごす体験を提供。異文化コミュニケーション学部の日本人学生と外国人留学生が協力して、様々なアクティビティを企画。英語の楽しさにふれるきっかけづくりを年に３回実施しています。

学部の特性を活かしたインターンシップ

国内・海外で学生のニーズに合ったインターンシップ先に学生を派遣しています。参加した学生は、大学ではできない経験を経て、大きく成長しています。

これからの世界へ、これからの学びを。新開発の 実践的カリキュラム。

「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創る知識と実践を結びつけていくための４つの柱。

異文化コミュニケーション学部は、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題に向かい合うことのできる知識、知恵、行動力を身につけるため、次の４つの柱を立ててカリキュラムを編成しています。

1 日本語を磨く・英語を磨く

日本で学ぶ以上、日本語は重要。1年次の「基礎演習」で、日本語力を訓練し、論理的思考力と自己表現力を磨きます。また、Dual Language Pathwayでは、英語で学び、議論し、レポートを書くことで、高い英語の運用力を磨きます。

2 英語＋1

言語は世界へ飛び出し活躍するための道具です。 国際共通語である英語に加え、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語のいずれかを選択し学びます。

3 知識と実践の往還

「通訳翻訳実習」、「日本語教育実習」、「フィールドワーク」、「サービスラーニング」などの実習型の科目を設置し、 教室で学んだ知識を現場での実践に結び付ける力を身につけていきます。

4 海外留学研修、Dual Language Pathway

原則全員が参加する2年次秋学期の「海外留学研修」や英語で展開されている専門科目を履修して卒業するDual Language Pathwayを設置し、 教室での学びだけに終わらない多様な仕組みをカリキュラムに組み込んでいます。

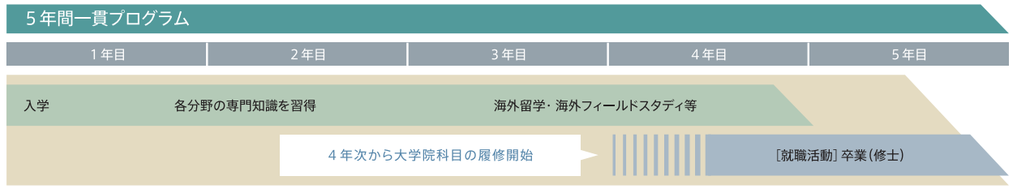
5年一貫プログラム

5年間で学士と修士、ふたつの学位が取得できます！

国連などの国際機関の職員や国内外の大学などの日本語教員になるには、修士の学位は必須です。また、中学や高校の英語教員になる場合にも、修士が求められることが多くなってきています。さらに、通訳や翻訳を職業としていくためにも、4年間の学びだけでは十分とは言えません。異文化コミュニケーション学部では、学士と修士という２つの学位を通常の6年ではなく5年で取得できるプログラムを展開しています。このプログラムの学生は、学部の４年次から大学院の科目の履修を開始し、学部卒業後は１年で大学院を修了することになります。異文化コミュニケーション学部ではこのプログラムの希望者を対象とした自由選抜入試を行います。また、このプログラムは、入学後3年次で申し込むことも可能です。

【コースの案内】

異文化コミュニケーション学部で学んだ様々な知識を大学院でさらに深めたい学生を対象としています。
4年次に学部での学びの集大成である卒業研究に取り組みながら、大学院修士課程の科目の履修を始めることになります。
そして、学部卒業後は、1年間で修士課程の科目履修と自らが選択した研究テーマで修士論文の完成を目指します。



異文化コミュニケーションを多角的に学ぶ専門科目群。

異文化コミュニケーション学部では、異文化コミュニケーション研究の基礎を学ぶ研究基礎科目の上にお互いが相互に関連し合った専門科目群を設置しています。 科目の設置は、「理解する」と「介入する」という２つの柱に基づいて行われ、両者が有機的に結びつくことで、学生が自ら選んだテーマに即して科目を選択していくことで、自ら行動する力を身につけていくことができます。

言語研究関連科目群
コミュニケーションについて考えることは、ことばそのものを考察すると同時に、ことばによって表現される人間の諸活動を分析していくことを意味しています。ことばを介して行われる情報伝達システム、ことばの世代間伝承、言語習得のメカニズムなどを考察していきます。

通訳翻訳研究関連科目群
異文化・異言語コミュニケーションにおける課題や可能性への気づき、通訳翻訳実践の諸相への理解を促します。体験型実習や共同プロジェクト志向の通訳翻訳演習を通して、企業や組織内でエントリーレベルの通訳翻訳実務ができるレベルへの到達を目指します。

コミュニケーション研究関連科目群
地域と国家の境界が急速に希薄化する現代社会において、融和ばかりでなく衝突、反発といった現象が頻発する現実を見据え、そこに生じる様々な課題にコミュニケーションの視点からアプローチし、分析します。

グローバル・スタディーズ研究関連科目群
人、メディア、言語、文化等のグローバル化によって移動する様々な対象を主題として専門的な知識を獲得していきます。さらに、国際協力・開発について、紛争解決や開発教育など本学科ならではの視点で理解を深めていきます。

		1年次	2年次	3年次	4年次
共通	必修科目	●基礎演習 A・B ●言語・コミュニケーション研究入門 ●グローバル・スタディーズ研究入門	● Cultural Exchange		
共通	海外研修［原則全員参加］		●海外留学研修 A・B・C１（秋学期）	●海外留学研修 C２	
選択科目	学びの精神	● College Life Planning A・B			
選択科目	基盤科目	●コミュニケーションセミナー（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・日本語）			
選択科目	基盤科目		●諸言語特別演習 A・B		
選択科目	基盤科目	●日本語コミュニケーション A・B・C・D（原則 留学生のみ履修可）		●ビジネス日本語コミュニケーション演習	
選択科目	基盤科目			●キャリア実践演習 A・B（原則 留学生のみ履修可）	
選択科目	基盤科目			●海外インターンシップ（CIC） ●海外フィールドスタディ B	
選択科目	基盤科目		●サービスラーニング A		
選択科目	基盤科目	●海外フィールドスタディ A ●サービスラーニング B ●インターンシップ			
選択科目	基礎科目	●言語学概論 ●コミュニケーション研究概論 ●国際協力・開発学概論 ●通訳翻訳学概論 ●文化と芸術 A・B ●多文化共生論			
選択科目	専門科目		●異文化トレーニング演習 ●通訳入門 ●国際協力・開発学特論 ●グローバル・スタディーズ研究調査法		
選択科目	専門科目			●バイリンガリズム研究 ●コミュニケーション特論	
選択科目	専門科目			●芸術論 A・B ●開発と文化 ●グローバル化と言語	
選択科目	専門演習 卒業研究			●専門演習１	●専門演習２・３
選択科目	専門演習 卒業研究				●卒業研究／卒業課題

（一部抜粋）

異文化の中の暮らしで、世界の見え方が変わった。

SOLUTIONS IN DIVERSITY 「ちがい」から、つくる。

異文化コミュニケーション学部では、すべての学生が「海外留学研修」を体験します。
留学先は、アジア、北アメリカ、オセアニア、ヨーロッパなど15ヵ国41校の提携先大学。
異なる文化の中に身を置くことで、他者の考え方を知るだけでなく、
自国の文化、そして自分自身について深く見つめ直すきっかけとなります。

★ 学部間協定校
○ Academic course program
◇ Language program

立教大学と国際交流協定を結んでいる海外の大学、
世界28ヵ国・地域の104校（大学間協定校）へ留学することも可能です。（2018年2月1日時点）

アイルランド
アイルランド国立大学ダブリン校◇

英国
ファウンデーション・フォー・インターナショナル・エデュケーション○
ブリストル大学○
マンチェスター大学★○
ヨーク・セント・ジョン大学★○
ロンドン芸術大学◇

フランス
オルレアン大学★○
アンジェ・カトリック大学◇

オランダ
ゾイド応用科学大学★○

スペイン
バスク大学★○
レオン大学◇

チェコ
マサリク大学★○

ドイツ
フライブルク大学★○
ライプツィヒ大学○◇

ブルネイ・ダルサラーム国
ブルネイ・ダルサラーム大学★○

スロベニア
リュブリャナ大学★○

韓国
聖公会大学★○
延世大学◇

台湾
国立成功大学★○
国立台湾師範大学★○

ニュージーランド
オタゴ大学◇

オーストラリア
クイーンズランド大学◇
シドニー大学★○
マッコーリー大学★○

アメリカ
アーカンソー大学○
アメリカン大学ワシントン・セメスター・プログラム○
オハイオ州立大学★○
オレゴン大学○
カルフォルニア大学サンタバーバラ校○
カルフォルニア大学リバーサイド校○
コロラド大学ボルダー校◇
サンディエゴ州立大学★○◇
サンフランシスコ州立大学○
テネシー大学チャタヌーガ校★○
デンバー大学★○
ミシシッピ大学○
ミネソタ大学○
モンタナ大学○
ルイス＆クラーク大学◇

カナダ
セント・メリーズ大学○
トロント大学◇

マイノリティから得られた新たな世界観。

ヨーロッパの中央に位置するチェコ共和国。EU各国のみならず、アフリカ、南米、中東など世界各国から学生が集まります。異なる文化的背景を持った人々とどう関係を築くか、まさに異文化コミュニケーションの能力を試された10ヶ月。アジアからの学生が少ない環境、マイノリティとして生活する中で、今まで見えなかった問題や特権に気づくことができました。留学を通して、異文化に対して寛容になり、視野を大きく広げられました。

チェコに留学

海外留学研修先：
マサリク大学
Masaryk University

**チェコ共和国の国立大学のひとつ、
歴史と学生数がともに2番目を誇る総合大学。**

モラヴィア地方の主要公立大学であるマサリク大学は、チェコ共和国の国立大学の中でも2番目に長い歴史を持つ。200以上の異なる学科、研究所、診療所があり、学生数は4万人を超え、海外からも7千人以上がともに学んでいる。

村上 恵里佳
異文化コミュニケーション学部4年
横浜国際高等学校出身

人生に正解などないということ。

広大なキャンパスと数多くの学生に埋もれて勉学に励む中で、自分を見つけることが今回の留学の目標でした。専攻したかった応用言語学とジェンダー論を学び、様々な機会に恵まれた環境で生活することで、今まで狭かった自分の未来に対する展望を大きく広げることができました。「人と同じでなくて良い」という気づきは、講義で学んだ多彩な学問と同様に非常に価値あるものであったと思います。

アメリカに留学

海外留学研修先：
オハイオ州立大学
The Ohio State University

**カレッジフットボールの名門としても知られる、
200以上の専攻を持つ全米有数の総合大学。**

アメリカ合衆国の名門公立大学群、パブリック・アイビーのひとつ。コロンバスに本部とメインキャンパスを置く同校には、学部生・大学院生合わせて5万人以上が在籍しており、学生数は国内最大規模である。

上田 佑
異文化コミュニケーション学部3年
薬園台高等学校出身

異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科においては、2年次秋学期に原則全員参加の「海外留学研修」という科目があります。留学先は英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語等の言語圏から選択します。「海外留学研修」履修者は、2年次秋学期の授業料および教育充実費が減額（2018年度計239,000円の減額）されるとともに、立教大学グローバル奨学金申請者で、所定の支給基準を満たした者には、選考の上、最大400,000円が支給されます。なお、留学費用は、以下のとおり留学先によって異なります。**〈学部間協定校へ留学する場合〉**留学先の学費は免除になりますが（私費留学を除く）、滞在費、食費、大学指定の保険加入などで半期の場合200,000～700,000円、1年間の場合は400,000～2,000,000円（派遣先大学により異なる。渡航費は除く。）が別途必要になります。**〈パートナー大学へ留学する場合〉**約4カ月間で実習費1,000,000～3,000,000円（2017年度実績。渡航費を除いた基本プログラム費、宿泊費など。研修先により異なる。為替の変動、留学先大学学費値上げなどで変動あり。）が別途必要になります。なお、実習費の一部（235,000円）は1年次の12月に納入していただく予定です。

思いきって飛びこめば、世界は必ずひらけてくる。

社会で活躍する卒業生

違いにふれると、自分が見える。

グーグル合同会社　広告営業本部
大山 尚樹 さん　2016年3月卒業

海外への憧れから異文化コミュニケーション学部に入学し、留学はアメリカの首都で外交政策を専攻しました。留学先では通常の授業に加えてシンクタンクでのインターンをしながら論文の執筆をしました。多国籍な学生やアメリカで働く人々との議論ができる刺激的な環境で様々な価値観に触れることができました。こうした経験は海外のプロダクトチームとのやりとりを始めとした他部署との連携が必要とされる今の仕事にも役立っています。文化や言葉、考え方が違う人に接することは自分を客観的に観るきっかけにもなります。多様な視点を身につけることのできるこの学部で学びを得ることで、自分の身の周りの社会の見え方が少し変わるかもしれません。

扉を開けば、可能性は広がる。

日産自動車株式会社　共同購買本部　購買管理部　教育チーム
河本 萌子 さん　2016年3月卒業

もっと広い世界を知りたいと期待を抱き、海外研修のある異文化コミュニケーション学部に入学しました。アメリカ留学中は、日本のものづくりに対する現地の人からの賞賛を実感しました。中でも、アメリカを走る日本製の車を目にする度に日本人であることを誇らしく思いました。異文化に触れれば、新たな視点や気づきを得ることができます。この学びは、グローバルかつ多種多様な人とコミュニケーションを取る現在の仕事で活きていると感じています。この学部には広い世界に挑むためのフィールドがあります。世界への扉を開いて、皆さんの未来の可能性を是非広げていって下さい。

就職先企業（過年度分）

- ●日本マイクロソフト
- ●ヤフー
- ●エヌ・ティ・ティ・データ
- ●キヤノン
- ●日立製作所
- ●三菱電機
- ●東京海上日動火災保険
- ●日本生命保険
- ●三井住友銀行
- ●西武鉄道
- ●日本通運
- ●ヤマト運輸
- ●成田国際空港
- ●本田技研工業
- ●ハウス食品
- ●アサヒ飲料
- ●ライオン
- ●花王
- ●第一三共ヘルスケア
- ●東映
- ●Shangri-La Hotels Japan
- ●プリンスホテル
- ●読売新聞社
- ●住友林業
- ●サイマル・インターナショナル
- ●エイチ・アイ・エス
- ●日本国際協力センター
- ●日本貿易振興機構　など

インターンシップ（学部正課科目）

能動的な姿勢が身についた貴重な経験。

［インターンシップ先］NPO JEN（難民支援）
島 加那美　異文化コミュニケーション学部4年　両国高等学校出身

社会人として働くイメージを明確に持つため、興味のある国際協力の分野について知るために参加しました。3週間かけて、イベントの出展ブースを一から企画しました。職員の方々と距離が近かったことが印象的で、最前線で活躍する方々の生の声や、仕事に対する考え方を聞く機会を多く持てました。チームで働くことの難しさを学び、仕事の意味を常に考え、結果的に能動的な姿勢が身についたと実感しています。授業で学んだ国際協力の実態や、その先を知ることができ、就職活動だけでなく、今後の人生にも活きる貴重な経験となりました。

教員からのメッセージ

モチベーションは本来の自己の発見へと導く。

Ron Martin 准教授
異文化コミュニケーション学部　英語教育

他言語の学習者や外国語を教えている教員は、語彙力、イディオム、会話や議論のスキル、書くことや他の多くに焦点を当てています。しかし、言語を学習すること、教えることの動機付けもまた大変重要であると実感しています。言語学習のモチベーションは、単純な概念ではなく、他の学習面からも切り離すことはできません。―どんなことでも― 達成への動機付けは一人一人の個人と結び付いています。そのやる気は人生を通して活かされ、私たちを人として定義します。モチベーションは、人の人格形成と大きく関係しています。人格の発展は非常に興味深いテーマであり、継続的プロセスです。大学は、「やり直す場所」や「新しい自分を生み出す場所」ではありません。「本来の自分を見つける場所」として大学を捉えてください。言語や文化、何かを成し遂げる能力に関して自分自身を見つめるとき、好奇心を持ってそれを行いましょう。常にこの挑戦心を抱いてください。

「分からない」は楽しい。

中川 理 准教授
異文化コミュニケーション学部　文化人類学

私は文化人類学の研究をしています。文化人類学とは、自分とは異なる「他者」の「ものの見方」を、フィールドから理解しようとする学問です。グローバリゼーションによって文化がどこでも同じようになり、「他者」は消えつつあると思うかもしれません。しかし、実際はその逆です。人やモノや情報の移動は、絶えず新しい出会いをもたらし、新しい「生のかたち」を生み出しています。むしろ、理解すべき多様性は、私たちの身の回りにさえ広がりつつあります。そして、その結果として世界がどうなっていくかはよく分かりません。だからこそ、深く考えてみる価値があるのです。みなさんには、遠くの世界だけでなく、自分の身の回りで起こっていることの「分からなさ」にこだわって考え続ける人でいてほしいと思います。

［キャリアサポート］ 早期から就業意識を喚起し、卒業後の具体的イメージを確立する多角的キャリア支援

1年次	2年次	3年次
自分自身の生き方・将来について考える時間	**異文化を体験し、新たな世界に触れる時間**	**将来・進路に向かって具体的に準備し、行動する時間**
入学時のキャリアデザインガイダンスからスタートし、ゆっくり自分自身を見つめる時間です。	秋学期以降の留学を体験することで新たな価値観に触れ、自分自身を啓発します。	各種ガイダンス、学部独自のインターンシップなどを通し進路選択の実践へ向かいます。

キャリア支援の流れ

- ●学部ウェルカムアワー
- ●キャリアデザインガイダンス
- ●各種キャリア支援プログラム
- ●各種セミナー・講演会

就職活動支援の流れ

- ●インターンシップ
- ●就職ガイダンス
- ●就職支援プログラム
- ●企業研究セミナー
- ●学部進路ガイダンス

Dear international students,

Studying intercultural communication at Rikkyo University is like setting out on a journey. As it progresses, you will encounter and interact with a diverse group of people in an increasingly complex and global society.

Throughout history, Japan has absorbed culture and technology from Asia as well as Europe and the Americas, and then adapted these elements to develop its own unique, hybrid culture. The Tokyo metropolitan area is home to a diverse community, a culture that has given rise to what might be called a uniquely Japanese style of communication. Although this culture or communication style may sometimes seem strange or even hard to understand, I hope that you will approach unfamiliar cultures and people with curiosity, and that you will join us at the College of International Communication at Rikkyo University.

Our department welcomes about 140 new students every year, and faculty members use their expertise across a wide variety of backgrounds and research areas to guide students and nurture their academic ambitions. Our curriculum and programs are structured to push students to use the skills that they are learning which they need in order to contribute to a society that respects diversity. At College of Intercultural Communication we examine the function of culture and language as well as different methods of communication, and tackle questions such as how to engage with people with different worldviews, how to approach understanding the cultural and societal backgrounds underlying different value systems, and how human beings can coexist amidst diversity and differences. So, bring the customs and worldviews of your upbringing with you and make friends here from Japan and other nations. Are you ready to learn and discuss as one?

異文化コミュニケーション学部長
浜崎 桂子
Dr. Keiko HAMAZAKI

Dean
College of Intercultural Communication

「異文化コミュニケーション」と聞くと、海外の人との外国語での交流を思い浮かべる人も多いでしょう。しかし、私たちはこの言葉をもっと広く深いものとしてとらえています。自分とは異なる考えを持つ他者とどう向き合うか、価値観の違いを生み出す文化や社会背景をどのように理解するか、多様性や違いを前提としつつ、いかに他者と共に生きていくべきなのか。このような問題について考えることすべてが異文化コミュニケーションだと考えているのです。日本の、そして世界の多様性に触れるためには、日本語を含む言語の高い運用能力が必要です。しかし、異文化コミュニケーション学部の学生が目指すのは「言葉を上手に使う」ことだけではなく、その力を生かしてさまざまな場で他者と他者をつなぎ、多様性が尊重される社会に貢献していくことです。そのために、言語やコミュニケーションの働き、文化と社会と人との関係について専門的に学ぶカリキュラム、また、海外留学研修、フィールドワーク、サービスラーニングなど、知識とスキルを実際に応用しながら学ぶ場を準備しています。他者と向き合うことは、同時に自分について考えること。4年間この学部でじっくり学び体験を積み重ねることで、あなたも、今とは異なる自分になっているはずです。自分とは違うものへの好奇心にあふれた、意欲あるみなさんを待っています。

SOLUTIONS IN DIVERSITY

Come face-to-face with a different culture and beliefs with an open heart and mind.
Know that ideas and values emerge from the collision of thought and perspectives.
Move ever forward to capture and harness each new creative communication moment.
Find what people do not see. Find the solutions in diversity to impact the world.
Look within and bring out that ability; start anew.
What seem to be insurmountable global issues require people
who can find practical solutions in environments of great diversity.
Join us, the College of Intercultural Communication.

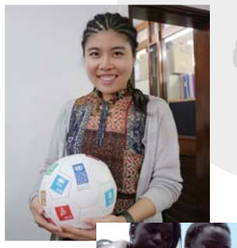
Coming Face-to-Face with Different Cultures, the Real Test of Readiness

TOPIC 1 United Nation Youth Volunteer

The UN began to feel closer, and so did my future self.

Miki Hamakawa
Fourth year, College of Intercultural Communication
Graduated, International Christian University High School

When I worked in Mozambique as a United Nations Youth Volunteer, what I felt most strongly was the lack of distance between myself and the UN. I realized that it wasn't some far-off, abstract organization like I had imagined; it was actually something much closer.
I was sent to the United Nations Volunteer (UNV) program office in Mozambique, a country in southeastern Africa. It was a valuable chance to see for myself what kind of programs the UN is running in developing countries. Before I visited Africa, it felt incredibly distant and abstract to me. During the five months I lived there and worked as a public relations officer, obviously the biggest surprise was all the new experiences that come with living in another culture. I feel that being able to work as a UN staffer while experiencing another culture really helped me to grow as a person. One of our goals in Mozambique was to encourage progress toward the sustainable development goals (SDGs) put forward by the United Nations Development Programme (UNDP). Specifically, I was in charge of producing content for the events calendar and newsletter, planning and running a UN Volunteer event scheduled for December 5, and conducting interviews with local UN volunteers. Over those five months, I did my job with a sense of responsibility and pride. I was inspired by the professionalism and knowledge of my colleagues, and I was always trying to catch up to them. It also changed my worldview to witness the passion of the people working for this international organization as well as the struggles of the local people. The UN went from being a distant, abstract concept to a living, breathing, human organization. Though I was less experienced than my colleagues, I could feel that we had the same passion for our work and the same sense of suffering that came with it. Being able to participate in this program—by becoming a member of the organization—allowed me to reevaluate my previous view of the UN. I was also able to experience life in another culture from an intersectional viewpoint, as both a UN staffer and a Japanese university student.
My experiences studying abroad in my sophomore year and as a UN Youth Volunteer in my junior year were instrumental in developing the interpersonal communication skills that I will need to work in international development in the future. Even after I graduate from the College of Intercultural Communication at Rikkyo University, I want to continue learning and growing. My experience in the UN Youth Volunteer program helped me to see where I am at this point in my life and what I need to do in order to be able to achieve my goal of working for an international organization in the future.



UN Youth Volunteer
This is a program supported by UNV of the institution of United Nations and Universities. Youth are sent to UN offices, Government organizations, and NGOs in development countries.

TOPIC 2 Overseas Field Studies

The first step toward understanding another culture: living as a member of the local community.

Tetsuya Shimozaki
Fourth year, College of Intercultural Communication
Graduated, Rissho Senior High School

On my overseas field study, I visited the small village of Hwaibulin, which is located atop Mt. Doi Inthanon in northern Thailand, about 1,000 meters above sea level. People there live self-sufficiently, blending tradition with modern conveniences such as cars and bikes. I was grateful and happy for the chance to experience their way of life. While at first it seemed that the village was living in total harmony with the environment, as I got to know its people, I learned that they were facing modern problems, ones without simple solutions. They were struggling with the disposal of plastics and other non-biodegradable garbage, and unsure of whether traditional ways of life would survive into the next generation. For example, their tradition of hand-dyeing fabrics is threatened by the influx of artificial technologies. During my time in Hwaibulin, I was able to experience their culture firsthand, and I tried my best to live as a member of the local community in order to better understand them. As I watched them go about their daily lives, I offered my help with housework and farming. I also worked hard to learn Thai and the language among those in the village so that we could communicate better, and I was proactive about socializing and participating in local events. I think that this attitude helped me to gain a deeper understanding of the people of Hwaibulin, their culture and life in the village, and the issues they are facing.
In the College of Intercultural Communication, I learned the importance of understanding and accepting other cultures and value systems. During my field study, I learned how challenging it can be to take something you understand in theory and apply it to your real life. This experience helped me to be more flexible in accommodating different viewpoints and made me aware of many issues I had been unfamiliar with. It was a very valuable step in my life's journey.

Overseas Field Studies
This new program started in the 2017 academic year. Groups of participants travel overseas and live in the field for about two weeks to experience and learn about different lifestyles, cultures, and local social issues. Through interaction, dialogue, and collaboration with local people, you can develop the intercultural communication skills you will need for the multicultural society that the College of Intercultural Communication is working towards.

TOPIC 3 Service Learning (Supporting Chinese Students in a Japanese Junior High School)

I don't only support their study, I want to support them as one—together.

Puiyan Siu
Fourth year, College of Intercultural Communication
International Student from Hong Kong

After graduating from high school in Hong Kong, I came to Japan where my father has working. I just knew the word 'hello' in Japanese, so I studied Japanese for two years. I entered the College of Intercultural Communication as an international student. Now I am a volunteer for one of the College's community-based cooperation projects. I support Chinese youth who are enrolled in junior high school near our university. They came to Japan with no Japanese language knowledge, and so we help them during class, whispering in Chinese what the Japanese teacher has instructed. At first, I thought it was just translation and interpreting volunteering, but now, I know that we are supporting them with the feeling of living together as the same foreigners in Japan. We, the College of Intercultural Communication offer many opportunities to join this kind of activity. International students like me and the Chinese junior high school students are like you when you go abroad. Be not only a guest, but we all need to think what we can do and what we want to do in the society of countries in which we live, even if it is for a short time.

Service Learning
From your first year on, what you learn in the classroom will help you to give back to the local community. Besides language supports and learning assistances, in the College of Intercultural Communication, we aim to give back to the local community in a variety of ways through our Japanese language classes and interpreting/translation services.

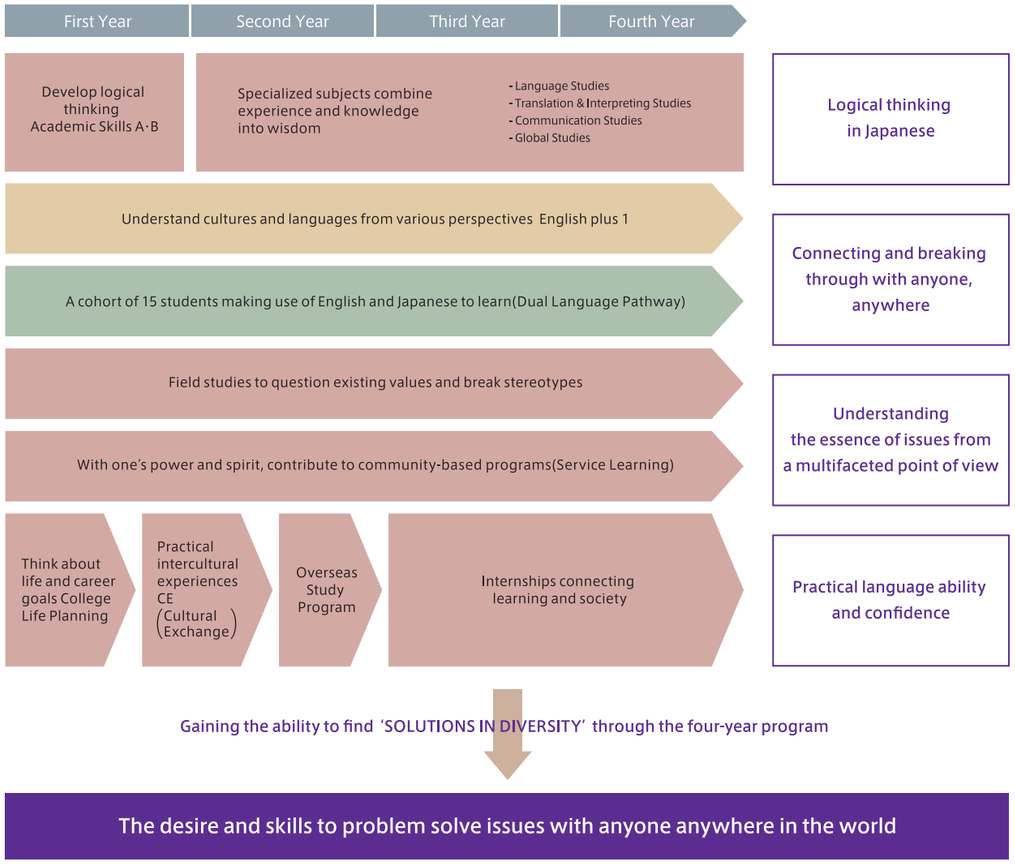
“Just Do This and You’ll Understand Everything”— No Such Education Exists.

SOLUTIONS IN DIVERSITY 「ちがい」から、つくる。

Way of Thinking, Undergraduate Education

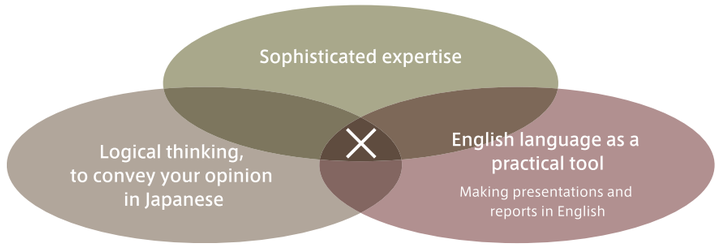
At the College of Intercultural Communication, we believe the best quality of learning combines the theoretical and the practical. Throughout our four-year curriculum, we expect every student to apply theory in practice to develop the capabilities to face issues at any time, in any situation, and with any other individual.

Curriculum Framework



English and More...
Become a Global Leader in the “Dual Language Pathway”

As a member of the DLP program you will gain specialized knowledge and skills through the College of Intercultural Communication four-year curriculum—in two languages, English and Japanese. In the DLP program, you will make full use of your practical skills in English (reading, writing, speaking and listening) and further develop your Japanese skills (contemplation, understanding, and self-expression). The capacity of this program is limited to 15 people, who are selected by taking a specialized, individual entrance examination. You take both special subjects that are conducted in English provided by the College of Intercultural Communication as well as Japanese subjects.
As one of the few members of the DLP cohort, you will see the value of this program and come to know and be what the world deserves—“A True Global Leader”



Features of the DLP

1. Study all specialized subjects you need for graduation in English
2. Choose to take courses in Japanese from subjects you are interested in
3. Senior Research and Thesis: Compulsory subject You are required to write in English
4. Study abroad at a partner university when you are a second year student from the Fall semester (for one semester or an academic year)

DLP Courses (not a complete list)

Academic Skills A·B (two-semester course)
Overview of Language and Communication Studies
Overview of Global Studies
Introduction to Communication
Introduction to Cultural Studies
Introduction to Intercultural Communication
Communication and Citizenship
Multiculturalism in Japan
Bilingualism
Religions in Japan
Media in Japan
Ethnicity and Globalization in Japan

DLP INTERVIEW

We are responsible for offering 15 members specific education.

Keiko Hamazaki Dean College of Intercultural Communication

While globalization is growing more and more, we face two of the greatest obstacles that could face any nation—an aging population and a decreasing birthrate. It is not enough to speak English in order to contribute to Japanese society as well as the global society. In the College of Intercultural Communication, we provide DLP members with specific education and opportunity to learn how to solve various issues by making use of Japanese and English. Why not learn with 15 peers in this noble environment? All you need is to find your courage and take the first step. We will guide you with responsibility and direction to the new world.

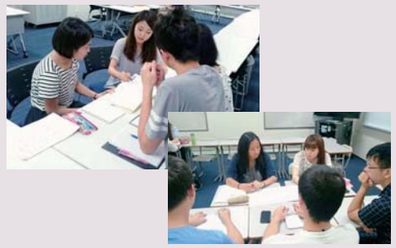
Information

Number of DLP Positions: 15, Conduct the test in the fall.
(Entrance Exam for International Courses)

Language for Communication

SOLUTIONS IN DIVERSITY 「ちがい」から、つくる。

Language Classroom Concept: Everyone Teaches, Everyone Learns.



The university partners with Toshima Ward to provide Japanese language learning assistance for non-native speakers. Undergraduate and graduate students who are studying to become Japanese teachers participate as volunteers, holding Japanese language classes twice a week. The students take the initiative in organizing the course and work to provide learning assistance tailored to the needs of the learners.

Rikkyo's Japanese language classes began in 2013, and have been attended by people from a wide range of nationalities, ages, and occupations. With globalization becoming ever more prevalent and more foreign nationals visiting Japan, needs for Japanese language services are increasing. This class has allowed me to look at not only the Japanese language but also Japan itself from an objective standpoint. I am doing my best to put myself in the students' shoes as they try to pick up the language. I hope that the students will be able to learn a lot, and that both the students and the volunteers will feel invested in the Japanese language and Japanese language learning.

Kana Masumoto First year, Master's Program in Intercultural Communication, Graduate School of Intercultural Communication
Graduated Bachelor's Program, College of Intercultural Communication
Graduated, Hiroshima Jogakuin Senior High School

Japanese Language Teacher Training Program

The College of Intercultural Communication provides a program for students who want to teach the Japanese language as a second/foreign language and issues a certificate upon completion. The goal of the program is twofold. First, the program will produce skilled teachers who will increase the number of people who can understand Japanese. Second, the program also aims to increase the number of people all over the world who can understand Japan and the Japanese people. Therefore, the program seeks to improve language ability and the presence and understanding of Japan as a nation. Many graduates have received this certificate and a number of them have been working as Japanese language teachers. Teaching Japanese to people in the world is the practice of intercultural communication. There are many chances to work in Japan as well as overseas.

Japanese Language Teacher Training Program Required Courses

Teaching Practicum-Japanese Language is a teaching training practice course utilizing international students at Rikkyo University as authentic students. This twice-a-week course requires students to make a course syllabus and associated teaching material.

First Year	Second Year	Third Year	Fourth Year
-Introduction to the Study of Japanese A -Introduction to the Study of Japanese B	-Teaching of Japanese as a Foreign Language 1	-Teaching of Japanese as a Foreign Language 2 -Special Topics in Japanese Linguistics -Teaching Practicum-Japanese Language Advanced Seminar	-Advanced Seminar -Senior Research and Thesis

RiCoLaS (Rikkyo Community Language Service) Service Learning in Translator and Interpreter Education.

RiCoLaS is a service learning program for translation and interpreting (TI) students at CIC. Students apply the skills and knowledge acquired in the classroom to actual TI projects on and off campus. Projects are carefully chosen based on guidelines connected to the TI curriculum. Assignments students have worked on include consecutive interpreting during field trips and seminars for international students, simultaneous interpreting for academic events, and translating historical exhibits and handouts for public lectures at Rikkyo. Utilizing the latest translation tools, students also act as project managers, overseeing the entire process of a project from the kick-off meeting to the reflection session. With an emphasis on professional conduct and ethics, RiCoLaS offers students opportunities to experience the joy and responsibility of being mediators of communication across languages by utilizing their skills and knowledge to address TI needs of real-life clients and users. Students also learn how to troubleshoot unexpected problems and how to communicate with their clients during projects. Participating in RiCoLaS establishes a meaningful foundation for students starting their TI careers.

Interpreter/Translator Training Program

The College of Intercultural Communication offers an interpreter/translator training program that begins at the undergraduate level and can be continued into the Graduate School. Upon completion of the undergraduate component of the program, the College of Intercultural Communication issues a certificate of completion. In order to enroll in the program, students need an excellent command of both English and Japanese. This challenging program is directly related to potential careers. Ongoing globalization has created a greater demand for interpreters and translators beyond the popular image of interpreting at an international conference. In fact, people need language assistance in many settings, such as at hospitals, police stations, and in court. Japan needs skilled interpreters and translators in order to become a country open to the world. Our program prepares you to fill this need.

Interpreter/Translator Training Program Courses

An unparalleled curriculum design that meets ISO and other global standards. Through systematic training, our goal is to foster interpreters and translators as acknowledged professionals in the world.

First Year	Second Year	Third/Fourth Year	
-Introduction to Translation and Interpreting Studies	-Introduction to Interpreting -Introduction to Translation -Translation and Interpreting in Multicultural Society -History of Translation and Interpreting	-Introduction to Simultaneous Interpreting -Consecutive Interpreting -Intermediate Translation I -Intermediate Translation II	-Translation and Interpreting Practicum -Translation and Interpreting: Theory and Research -Advanced Seminar -Senior Research and Thesis

Service Learning

From your first year on, what you learn in the classroom will help you to give back to the local community. One of our courses is designed to provide learning assistance for foreign national students at junior high schools in Toshima Ward through in-classroom language support and learning assistance. In the College of Intercultural Communication, we aim to give back to the local community in a variety of ways through our Japanese language classes and interpreting/translation services.

Overseas Field Studies

This program offers field studies in a variety of overseas fields, where you can grow as a person by experiencing the different lifestyles, cultures, and local social issues, and thereby confront your own values and your own understanding of the world. Through interaction, dialogue, and collaboration with local people, you can improve your intercultural communication skills and develop the abilities you need to shine. We plan to visit Sri Lanka and Thailand in the 2018 academic year. Some programs are even available to first year students.

English Camp

The College of Intercultural Communication invites elementary and junior high school students from the local Toshima Ward schools to our campus to offer them an English language communication experience. This College Japanese students along with international students organize the camp, create activities, and lead the entire event.This camp will be held three times a year.

Internships Focusing on Intercultural Communication

The College of Intercultural Communication offers students internship opportunities, either in Japan or abroad. Internship participants grow through experience in ways they cannot get only within the university.

The Curriculum: Building Harmony Among Differences, Making a Sustainable Future

Four Pillars Elevating Knowledge and Practice.

The College of Intercultural Communication curriculum rests upon four pillars that are designed to engage students from different perspectives to create new knowledge and to provide practical skills enabling students to face real-world issues with an open mind focused on finding solutions.

1 Japanese Language Education

The College of Intercultural Communication believes that taking one's first language for granted is a loss of greart potential. In the first year, students will develop Japanese language skills for improving logical thinking and self-expression at the academic level in the Academic Skills course. Students enrolled in the Dual Language Pathway program will develop their English language skills through the use of English to understand, to discuss, and to write about course topics.

2 English +1

Language is a tool used to access and to succeed in the world. In addition to English as a global language, students study one of the following additional languages: German, French, Spanish, Chinese, Korean or Japanese.

3 The Connective Cycle Between Knowledge and Practice

The College of Intercultural Communication offers courses with an applied-skills approach such as Interpreting / Translation Practicum, Japanese Language Teaching Practicum, and Fieldwork, and Service Learning. Students utilize gained knowledge to accomplish real-world tasks.

4 Overseas Study Abroad Program and Dual Language Pathway

The College of Intercultural Communication provides a for-credit Overseas Study Abroad Program that most of the students participate in during the Fall semester of the second year. Students enrolled in the Dual Language Pathway are able to complete all required credits through specialized courses conducted only in English. Coursework often includes outside-of-class experiences and activities.

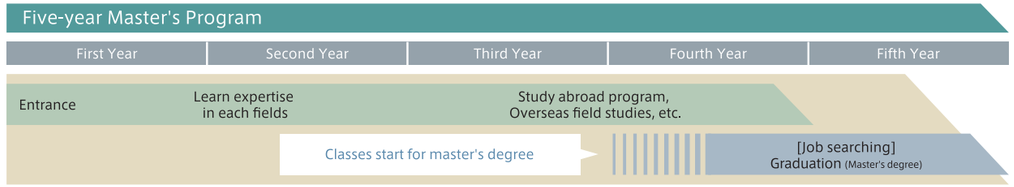
Five-Year Integrated Program

Finish your Bachelor's and a Master's degrees in just five years!

If you want to work in an international organization like the United Nations, or as a Japanese language teacher at a university in Japan or abroad, you are going to need a Master's degree. Or, if you want to teach English at a junior or senior high school, that often requires a Master's degree as well. And if you want to work as an interpreter or translator, four years of study still will not be enough. The College of Intercultural Communication has a program that will allow you to finish two degrees, a Bachelor's and a Master's, in five years instead of the standard six. In this program, you begin taking Graduate School courses in your fourth year of undergraduate study so that once you graduate from the faculty, you can finish your graduate degree in only one year.
The College of Intercultural Communication conducts an entrance examination called admission based on self-referral for candidates interested in this program. It would be possible to apply for this program in your third year.

【About the Course】

The college intends for students who want to gain a deeper understanding of what they have learned in the College of Intercultural Communication. In your fourth year, you will be grouped into culminating graduation research projects, and start to take Master's Program courses in the Graduate School at the same time. After you graduate the faculty, you can aim to complete not only your Master's Program courses but also a Master's thesis on a subject of your choice in the space of one year.



Intercultural Communication Through Specialized Fields of Study.

Intercultural Communication specialized fields of study rest upon two principles: Understanding and Implementation. Students choose courses that are line with their interests and learn how to apply the knowledge they gain.

Language Studies
Investigating communication is the simultaneous examination of language and the human behavior connected to language. Students will analyze the role of language in how information is transferred between people, through folklore between generations, and how languages are acquired.

Translation & Interpreting Studies
The study of translation and interpreting raises awareness of possibilities and challenges in intercultural communication. Through hands-on, project-based practices, students will be prepared to address entry-level translation and interpreting needs.

Communication Studies
Cultural boundaries between communities, local and global, which were once clear are now rapidly becoming infused. Peoples are becoming more united, but conflicts and backlash are also occurring, at times only at a moments notice. Students explore these issues through the field of Communication Studies.

Global Studies
Students will acquire a working professional knowledge of the vast field of Global Studies, targeting the areas of humankind, the media, language, and culture. Students will deepen their understanding by exploring international cooperation, international development, conflict resolution, and education development—all from the perspective for the global need of intercultural communication.

		First Year	Second Year	Third Year	Fourth Year
Common subjects	Required courses	● Academic Skills A・B ● Overview of Language and Communication Studies ● Overview of Global Studies	● Cultural Exchange		
	Study Abroad Program		● Overseas Study Program A・B・C 1 (the second semester)	● Overseas Study Program C 2	
Elective subjects	Introduction to Academic Studies	● College Life Planning A・B			
	Basic courses	● Communication Seminar (German/French/Spanish/Chinese/Korean/Japanese)			
			● Communication Seminar (Intensive) A・B		
		● Japanese Communication A・B・C・D (Offered to International Students)		● Seminar in Japanese Language Business Communication	
				● Career Skill Development A・B (Offered to International Students)	
				● Overseas Internship (CIC) ● Overseas Field Studies B	
			● Service Learning A		
		● Overseas Field Studies A ● Service Learning B ● Internship			
	Introductory courses of Specialized subjects	● Introduction to Linguistics ● Introduction to Communication ● Introduction to International Development and Cooperation ● Introduction to Translation and Interpreting Studies ● Art and Culture A・B ● Introduction to Multi/intercultural issues			
	Specialized courses		● Seminar in Intercultural Training ● Introduction to Interpreting ● Topics in International Cooperation and Development ● Research Methods in Global Studies		
				● Bilingualism ● Topics in Communication	
				● Art Studies A・B ● Development and Culture ● Globalization and Language	
	Advanced Seminar / Research Guidance			● Advanced Seminar 1	● Advanced Seminar 2/3
					● Senior Research and Thesis

(Excerpts)

The Japan Studies Program

The Japan Studies Program is offered to International Students as (1) an alternative to the Study Abroad Program and (2) to provide them (and interested 3rd and 4th year Japanese students) with an understanding of Japan through a multicultural and multilingual lens in order to see Japan as a diverse, multifaceted dynamic that is in flux rather than attempting to define Japan by its literature, history, art, entertainment, politics, and economy.

A Models for Multiculturalism in Japan

Japan has looked abroad, such as to Canada and Australia, to explore models of multiculturalism. In comparison to such frameworks, however, the Japanese society has been viewed as being closed and culturally homogeneous to the point that Japan must start entirely anew to achieve multiculturalism. But is it true that a multicultural way of life has never existed in Japan? This course revisits the stereotyped images of Japan. The development of multiculturalism in Japan is understood by examining how people have coexisted in their villages and cities, and how people have lived in multi-ethnic environments under colonial rule. We then explore the possibilities of designing a Japanese model of multiculturalism. Students will also go on study tours to actual locations in order to understand current multiculturalism in Japan..

B Narratives & Collective Memory

This course discusses the relationships between narratives and collective memory in Japanese society by looking at narratives and memories from three perspectives: official narratives and memories, vernacular narratives and memories, and the debate over conflicting narratives and memories. By critically examining varied, often conflicting interpretations of history in Japan, students will develop increased awareness of how collective memories inform understanding of the present and shape expectations for the future. Students will also gain a better understanding of how narratives of the past are used to reproduce and challenge contemporary power relations in Japanese society.

C Language Education in Multicultural Japan

Through investigating the challenges that Japan is facing with regard to language education in a developing multicultural society, we can (1) gain a deeper understanding of the cultural diversity in Japan, and (2) examine the roles of the Japanese language, the Japanese culture, and the Japanese people.

D Multilingual Japan: Fieldwork in Tokyo

By conducting fieldwork, students will uncover the different landscapes of language in use in modern-day Japanese society. Rich linguistic landscapes, such as in the areas of Ikebukuro, Shin-Okubo, and Shibuya, and at ethnic schools like the Korean schools which belong to the Federation of All Democratic Koreans in Japan show vibrant language communities. In addition, in the eastern part of Tokyo known as Shitamachi, language differs from the so-called Standard Japanese, the language spoken within the Yamanote circle and in the western hills of Tokyo. In sum, students discover part of the multilingual Japan that currently thrives.

E Environmental Education in Japan

Environmental Education in Japan, by using American models, took root and expanded in the 1970s and 1980s. From the 1990s, however, Japan set out to establish a Japanese Model of Environmental Education, which has become one of the highly regarded models in Asia. This course focuses on how the Japanese model was developed in connection with the underlying importance of nature in the Japanese culture.

F Diversity in Japan

Instead of defining Japan only in relation to its relationship with the West and other Asian nations, what Japan is can only be firmly grasped by understanding its heart—Tokyo—and its position and relationship with the rest of the Japanese nation. Coursework will include tours, such as a waterway tour of Tokyo and organic farming experiments and cover topics such as Asian Pop Culture, Global City Theory, and Global Tourism in relationship to Japan.

G Seeing Japan and Its People Through the Japanese Language

By analyzing Japanese language in use in Japanese society—the names of mascots, the way the topic of nature is utilized, the words used to produce harmony and order, how dating is expressed, the way people quarrel, the names of the shops, and the language on signs—students will come to a greater understanding to the bonds among people and the workings of society. Students will bring in evidence of authentic materials used in society for class discussions to explore how the history of the Japanese language, its notation, sound, and rhythm combine to reflect the image of Japan and the Japanese people.

H The *Kojiki* and the Japanese

In 2012, Japan celebrated the 1,300th anniversary of the Kojiki—known as the Records of Ancient Matters. Many attempts have been made to interpret its mythical lore to understand the roots of the Japanese. Yet instead of categorizing Kojiki as a myth, we will read the original text in order to study the Japanese people's perspectives on the world and nature and to examine various customs and traditions that have been passed down over the centuries. Students will conduct fieldwork by visiting traditional places related to the Kojiki and interview storytellers in the quest of providing a multifaceted answer to the question: Who are the Japanese?

[Career Support]

From the early stages, career support is provided to help students start from career-awareness to build toward a concrete image of career choices.

First Year	Second Year	Third Year
Time to think about the future Thinking about the future begins with introspection about oneself and this begins with the Career Design Guidance in the Spring.	**Time to encounter another culture and a new world** The study abroad experience in the Fall semester exposes students to a new set of values and promotes academic and personal growth.	**Time to take action toward one's future/career path** Through academic seminars and internships, students take charge as they work toward their future career goals.

The flow of support for career development

- "Welcome Hour" orientation
- Career Design Guidance
- A variety of programs to support career development
- A variety of academic seminars/lectures

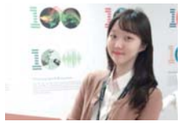
The flow of support for entering employment

- Internships
- Guidance for job hunting
- Programs for job hunting
- Corporate research seminar
- Career guidance by the department

Forerunners' Messege

SOLUTIONS IN DIVERSITY 「ちがい」から、つくる。

International Student's Career Path After Graduation



Not only the culture shock, but also internal culture shock.

IBM Japan, Ltd.
Life Science Sales Industrial, Energy&Public Enterprise Sales
Jihyeon Lee (From South Korea) Graduated, March 2015

What kind of work are you doing?

I currently belong to the Enterprise Business Division of my company, which means that my customers are other companies. I need to be able to understand the environment my customers are in, propose appropriate solutions for their current needs and concerns, and work together with the Solutions Division to make valuable suggestions. It is not just Japanese companies; I also have to build trusting relationships with foreign companies, so I feel like the communication skills I developed in this faculty are put to use every day.

What was your motivation for applying to this faculty?

I chose this faculty because I really liked the idea of learning about different cultures from an academic perspective and having the cross-cultural experience of studying abroad. My interest in Japan was first starting to develop when I learned about this faculty during my first year of high school in Korea. Then I began to study Japanese intently, and I was lucky enough to pass the entrance exam and enroll here.

What was your study abroad in Canada like? (St. Mary's University)

St. Mary's was founded in 1802, and is well known for its connections to Canadian history and culture. Since I had only lived in busy cities like Seoul and Tokyo, I wanted to study at a school where I could be surrounded by nature. And because I have always been the type to enjoy a challenge, I chose something that was completely outside my field: the Economics Department. It was much harder than I expected, but I studied like my life depended on it. When I returned home, I realized that this experience had awakened in me a strong desire to study. My grades improved, and I was even able to receive Rikkyo University scholarships.

What do you like about this faculty?

There are many small classes, which gave me lots of opportunities to express my opinion. The professors have also created an environment where we can have active discussions. Even after class was over, my classmates and I would keep on exchanging opinions, talking and opening ourselves up to one another's ideas. It was very stimulating. I miss the discussions we used to have.

Do you have a message for people interested in applying to this faculty?

In this faculty, not only will you learn about different cultures, but during your second-year study abroad, you will have the opportunity to experience what you learned firsthand. In my time at university, I experienced the culture shock of living in a new place, and also a kind of internal culture shock that came from engaging proactively with my peers, getting to know them, and coming to realize what my opinions really were. It was a fantastic experience and I hope you all have the chance to study abroad as well.

It is okay if all you have right now is an interest.

Shangri-La Hotel, Tokyo
Tee Wenyi (From Malaysia) Graduated, March 2017

What are your plans after graduation?

I plan to work at a hotel, which I have wanted to do since before I enrolled. Since I was considering employment in Japan, I went to corporate explanation seminars and did some job searching. The theme of this hotel is family. Interacting with the staff actually working there, I saw that they were bright, kind, and sincere. It made me look forward to working in that environment.

What was your motivation for applying to this faculty? What was it like after you enrolled?

I spent a year studying at a Japanese language school in Japan and realized that I wanted to be active on a global level, so I chose this faculty because you can learn about a variety of cultures. Before I enrolled, I was worried about whether I would be able to adjust to life at a Japanese university, but I found that my classmates, my professors, and the Rikkyo University staff were all very kind and supportive. It did not take me long to start feeling comfortable.

What was your study abroad in Germany like? (Universität Leipzig)

I began studying German in my first year. I chose Universität Leipzig because I wanted to further improve my language ability. I took German language classes, which meant I could study with people of various nationalities. Outside of school, I savored the unique aspects of life in Germany. I helped my German friends with DIY projects at their homes, and enjoyed the custom of friendly chats over tea in the evenings. I feel like I was able to experience German culture.

What was your college life like?

In my classes, I was ultimately very interested in learning about multiculturalism. Asking questions like "How did this custom develop?" and learning about the histories of different countries, I was able to deepen my understanding of the German culture around me. By volunteering for Chinese language support in departmental programs and making presentations in Japanese at faculty symposiums, I was able to embrace the challenger's spirit inside me and be proactive.

Do you have a message for people interested in applying to this faculty?

In a nutshell, this faculty allows you to thoroughly challenge yourself in your areas of interest. As I studied, I developed interest in areas that had never appealed to me before, and it broadened my perspective significantly. It is okay if all you have right now is an interest in a different culture. There are many things waiting for you when you enroll: learning and experiences that will broaden your perspective, and of course meetings with lots of incredible new friends.

Messages from the Faculty

SOLUTIONS IN DIVERSITY 「ちがい」から、つくる。

Motivation leads to self discovery.

Ron Martin, Associate Professor College of Intercultural Communication English Language Education

Learners of other languages and teachers who teach foreign languages often focus on vocabulary, idioms, conversation and discussion skills, writing and a number of other topics. However, motivation in language learning and teaching is also very important in order to achieve language competency. Yet motivation in language learning is not a simple concept, nor is it isolated from other facets of learning.
The motivation to achieve—anything—is tied to who we are as individuals. And it is this motivation to achieve that drives each of us throughout life, defining us as people. That is, the motivation to achieve is related to a person's identity.
Identity development is a fascinating topic, and identity development is an ongoing process. University is not a place to "start over" and develop a "new you". Think of university as a place to find out who you really are. So when you look at yourself with regard to language or culture or your ability to do something, do so with a curiosity of discovery. Embrace this challenge.

The unknown is incredibly exciting.

Osamu Nakagawa, Associate Professor College of Intercultural Communication Cultural Anthropology

I am a researcher in the field of Cultural Anthropology. Cultural Anthropology is the study of understanding the difference between one's view and that of an 'other' within a set context, often referred to as a field. You may feel like globalization is making culture more homogenous worldwide and that the 'other' or 'otherness' is disappearing, but in reality, the exact opposite is taking place. The constant movement of people, things, and information across borders is creating endless encounters, and each new encounter creates a new form of life. Thus, the diversity surrounding us—to be understood and studied—is ever expanding. And so, none of us can be certain of exactly how such change will affect the world. That's why it's worth considering what it means. I hope that you all will seek out the unknown—not just in faraway places but also what is happening around you every day—and learn to think about it deeply as you move forward in daily life.

Faculty Profiles

Come Study with Us

SOLUTIONS IN DIVERSITY 「ちがい」から、つくる。

		研究領域／Field(s) of study
マーク・カプリオ	教授	朝鮮史、主に植民地、戦後の在日朝鮮問題、北朝鮮の核問題
Mark E. Caprio	Professor	Korean History specializing in: Colonization, Postwar Repatriation of the Koreans Residing in Japan, and Nuclear Issues in North Korea
スティーヴン・カズンズ	教授	日米における文化的自我像、比較文化
Steven D. Cousins	Professor	Culture and Selfhood in Japan and the US
グレゴリー・グラスゴー	助教	言語政策、第二言語習得教授法、国際共通語としての英語
Gregory P. Glasgow	Assistant Professor	Language Policy, Second Language Acquisition/TESOL, Global Englishes
浜崎 桂子	教授	ドイツ語圏（特に移民による）文学・文化
Keiko Hamazaki	Professor	Literature and Culture (mostly of immigrants) in German-speaking Countries/Regions
星野 宏美	教授	音楽学、西洋音楽史、メンデルスゾーン研究
Hiromi Hoshino	Professor	Music History, Western Music History, and Mendelssohn Studies
細井 尚子	教授	演劇学、中国表演学、アジア比較演劇
Naoko Hosoi	Professor	Drama Studies, Chinese Stage Art, and Comparative Studies of Asian Drama
飯島 みどり	准教授	ラテンアメリカ近現代史・地域研究
Midori Iijima	Associate Professor	Latin American History / Area Studies
池田 伸子	教授	日本語教育、教育工学
Nobuko Ikeda	Professor	Japanese Language Education and Educational Technology
石井 正子	教授	紛争研究、国際協力、地域研究
Masako Ishii	Professor	Conflict Studies, International Cooperation, and Area Studies
石川 文也	教授	フランス語教育論、会話（ディスクール）分析
Fumiya Ishikawa	Professor	French Education and Discourse Analysis
石坂 浩一	准教授	韓国社会論、韓国映画論
Koichi Ishizaka	Associate Professor	Korean Society and Korean Films
河合 優子	教授	異文化コミュニケーション論、多文化社会論
Yuko Kawai	Professor	Intercultural Communication and Multiculturalism
小峯 茂嗣	助教	平和構築、国際協力、NGO
Shigetsugu Komine	Assistant Professor	Peace Building, International Cooperation, and Non-Govermental Organizations
小山 亘	教授	言語人類学、語用論、記号論、社会言語学
Wataru Koyama	Professor	Linguistic Anthropology, Pragmatics, Semiotics, and Sociolinguistics
黒岩 三恵	教授	西洋美術史（ゴシック期：13—16世紀）
Mie Kuroiwa	Professor	Western Art History (The Gothic Era: 13-16C)
李 香鎮	教授	東アジア映画、大衆文化、社会学
Hyangjin Lee	Professor	Sociology of Film and Popular Culture
ロン・マーティン	准教授	英語教育学、シラバス・カリキュラム開発、モチベーション、英語教授法
Ron Martin	Associate Professor	English Education, Syllabus and Curriculum Development, Motivation, and TESOL

		研究領域／Field(s) of study
丸山 千歌	教授	日本語教育、社会言語学
Chika Maruyama	Professor	Japanese Language Education and Sociolinguistics
松下 佳世	准教授	通訳翻訳学、メディア研究
Kayo Matsushita	Associate Professor	Interpreting and Translation Studies, Media Studies
森 聡美	教授	言語習得、バイリンガリズム
Satomi Mori	Professor	Language Acquisition and Bilingualism
師岡 淳也	准教授	コミュニケーション学
Junya Morooka	Associate Professor	Communication Studies
灘光 洋子	教授	異文化コミュニケーション論
Yoko Nadamitsu	Professor	Intercultural Communication
中川 理	准教授	文化人類学、グローバリゼーション研究
Osamu Nakagawa	Associate Professor	Cultural Anthropology and Globalization Studies
新野 守広	教授	現代ドイツ演劇、都市文化論
Morihiro Niino	Professor	Modern German Theatre and Cultural Urbanity
小倉 和子	教授	フランス（語圏）文学、女性史
Kazuko Ogura	Professor	French Literature (Incl, Literature of French Speaking Regions) and Women's History
奥野 克巳	教授	文化人類学
Katsumi Okuno	Professor	Cultural Anthropology
佐竹 晶子	准教授	アイルランド演劇
Akiko Satake	Associate Professor	Irish Drama
佐藤 邦彦	教授	言語学（スペイン語学）、意味論、語彙論
Kunihiko Sato	Professor	Linguistics (Spanish Linguistics), Semantics, and Lexicology
髙橋 里美	教授	第二言語習得、中間言語語用論
Satomi Takahashi	Professor	Second Language Acquisition and Interlanguage Pragmatics
高山 一郎	教授	言語政策
Ichiro Takayama	Professor	Language Policies
武田 珂代子	教授	翻訳通訳学
Kayoko Takeda	Professor	Translation and Interpreting Studies
ダニエル・ヴェラスコ	助教	国際心理学、異文化コミュニケーション、国際保健
Daniel R.Velasco	Assistant Professor	International Psychology, Intercultural Communication, Global Health
山口 まり子	准教授	哲学（言語哲学・行為論・認知論・存在論など）
Mariko Yamaguchi	Associate Professor	Philosophy (philosophy of language, philosophy of action, epistemology, metaphysics) and Ethics

2019.4 在籍予定教員

Information

International Student Admission

The College of Intercultural Communication welcomes international students. If you meet the eligibility requirements and are inspired by our curriculum, please apply.

Eligibility

International Student Admission is offered to those who:

①do not possess Japanese citizenship; and
②have attended secondary school (grades 7 to 12, which in Japan is approximately ages 13 to 18) under a Japanese curriculum in Japan for one year or less; and
③have or will have completed their secondary education by March 31, 2019.

Application Procedures

International students may apply to the College of Intercultural Communication through one of two application procedures regardless of country of residence: Document-based application, or Japanese language examination and personal interview.

For more information, visit: http://www.rikkyo.ac.jp/admissions/undergraduate/foreigner.html

Tuition Reduction System and Scholarships

Rikkyo University offers two forms of financial support for international students: a tuition reduction system and scholarships. For the 2018 academic year, degree-seeking international students were eligible for a 30% reduction in tuition, a reduction which must be applied for upon enrollment.

For information about scholarships, please visit:
https://spirit.rikkyo.ac.jp/international/foreigner/en/SitePages/scholarships.aspx

This financial support is designed to help international students achieve success and enjoy studying while at Rikkyo.

Estimated Living Expenses

Your costs may be different than what is listed here, so it is important to determine what your particular expenses will be.

Cost of Living (estimate per month)
Rent and Utilities: ¥65,500
Food: ¥26,700
Books and Study Supplies: ¥6,200
Entertainment: ¥12,200
Transportation: ¥6,500

The Center for Japanese Language Education (CJLE)

The CJLE offers Japanese language courses as part of the Mandatory Language Education Courses B for degree-seeking international students who are enrolled in the General Curriculum. These courses focus on academic skills required for studying and conducting research at the university level, such as writing reports and making presentations. In addition, students can acquire various skill sets for specific language-use needs, such as job hunting, employment exams, and writing a graduation thesis.

For more information, visit: https://cjle.rikkyo.ac.jp/english/

Housing

Rikkyo students, as is true for most university students in Japan, commute to campus. A commute via train of 30 minutes would be considered as common. Rikkyo offers the following support, but not guarantee any student specific housing conditions.

University Dormitories

There are three Rikkyo University International Dormitories (RUID). The three dormitories (RUID Asakadai, RUID Shiki, and RIR Shinamachi) are operated in cooperation with external contractors. All Rikkyo students are eligible to apply for a room.

Apartments

Rikkyo University cooperates with two real estate agencies (House Mate Co., Ltd. and the National Student Information Center [NASIC]) which assist international students in finding housing.

For more information, visit: http://english.rikkyo.ac.jp/student_life/international_exchange/foreigner/special/accommodations/

Please be sure to reserve suitable temporary lodging (such as hotel or hostel) because it may take some time for you to find an apartment.

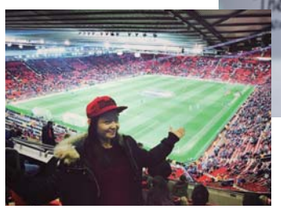
College Life

Studying in Japan changes my way of thinking, lifestyle and more.

Lee Yu Shan
Fourth year, College of Intercultural Communication
International Student from Malaysia

Link CIC (An activity group of the College of Intercultural Communication)
I was really into the group and participating almost all the activities. For example, Career Café, Photo Contest, Faculty Magazine Editing. I learnt not only leadership and managing an event, but also gained friendship with the members.

Studying Abroad to Manchester University
One of the biggest things is that the difference between the Asian and the Western culture was 10 times bigger than I thought. If I have a chance, I would like to study abroad again to other countries or even back to Manchester.



Message to Candidates
Staying in Japan brings me so much joy and has a great influence on my way of thinking. One important reality is that not everything in the country is as beautiful and dreamy as we think. Nothing is perfect. Therefore, enjoy the experience to the most because life is about joining dots to dots.

Contact Information

College of Intercultural Communication
Rikkyo University
College Administration Office, Section 4
3-34-1 Nishi-Ikebukuro, Toshima-ku, Tokyo 171-8501, Japan
e-mail: ibunkagakubu@rikkyo.ac.jp
Homepage: http://icc.rikkyo.ac.jp/english

立教大学
異文化コミュニケーション学部

お問い合わせ／Information

入学センター　〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1　TEL：03-3985-2660

Admissions Center　3-34-1 Nishi-Ikebukuro,Toshima-ku,Tokyo, Japan 171-8501　TEL：+81-3-3985-2660

www.rikkyo.ac.jp